

就労準備支援事業における令和4年度の取組

項目	令和3年度評価（成果・課題）	令和4年度の取組計画	令和4年度の実績（令和4年12月末時点）
<p>地域での 居場所・役割</p>	<p>【実績】 ・アサガオ親の会に参加し、不登校、家族のひきこもりに悩む参加者に対して事業説明を行った。その際に、ひきこもり状態の家族についての相談を個別に受け、ひきこもり当事者の了承を得て、自立相談職員と同行し自宅訪問に至った。 自宅訪問を重ねていく内に外に出る機会や他者と関わる機会をもつことができるようになった ・寄ってカフェを毎月実施、（オンライン開催含む。）令和3年度は延べ27名来店される。 ・つどい場「くろまつ」で「園芸」「編み物教室」「体操教室」「ビジネスマナー講座」や参加者に合わせたオーダーメイドのプログラムを実施。</p> <p>【評価】 ・アウトリーチすることで、潜在化している当事者に会うことができた。今後も家族や本人からお話を伺いながらアセスメントを行い、関係性を築きながら関わっていく。 ・寄ってカフェの周知に伴い、既存の周知方法に加えて芦屋市内にある広報板を活用した。前年度に比べ9名増加した。（前年度延べ18名） ・定期的に通える場（くろまつ）を設けることで、プログラム提供や他者との関わりの機会をもつことができた。少人数ではあるも居場所としての役割ができていように思う。（毎回2～4名ほど参加）</p> <p>【課題】 ・ひきこもり当事者に関わっていくうえで、丁寧なアセスメントの必要性を改めて認識した。家族の「訪問してほしい」「ずっとこのままではないのか」という気持ちを汲みながらも、ひきこもり当事者の気持ちを第一に考えなくてはいけないと感じた。 その一方で、現在関わっているひきこもりのケースは比較的経済的に余裕のあるご家庭が多いが、困窮状態にある世帯でのひきこもり支援ではより一層行政や自立相談支援事業と連携しながらの関わりが必要であると感じる。 ・困窮状態にある方が、本事業を利用している期間、経済的な基盤がないため、就労への焦りが先行し、プログラムや就労体験に参加する必要性の意識を持ちにくい。 本事業利用者の生活状況を踏まえた支援の工夫が必要だと感じた。</p>	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者相談センター親の会と継続して連携する。 訪問支援（アウトリーチ）等による早期からの継続的な個別支援を実施する。 定期的に通える場をつくり、日々の体調を確認したり、プログラム参加や作業ができる場を提供する。 気軽に相談でき、集まれる場として寄ってカフェを継続的に実施していく。（オンライン含む。） ひだまりの会へ参加し、ご家族との関わりをもち、当事者へのアプローチを検討していく。 	<p>【実績】 ・若者相談センター「アサガオ」の親の会と継続して連携し、情報共有を行った。 ・訪問支援を重ねることで対象者の興味のあることや、「苦手なこと」「してみても良い事」について知ることができた。その情報をもとに外に出るきっかけづくりの提案をしたことで、外に出る事が出来た。その後も緩やかに継続した個別支援を実施することで、就労体験への参加など就労への意欲が高まり、プログラムを通して他者と関わる機会が増加した。 ・つどい場「くろまつ」を継続して実施。28回開催し、延べ人数81名が参加した。参加者からは、「月曜日は早起きするようになった。」「人と話す機会や外に出る機会が増えた。」と感想をいただいている。</p> <p>【評価】 ・つどい場「くろまつ」のように定期的に通える場をつくることで、少人数ながら本事業利用者の他者との関わりの機会の増加、外出の機会の増加になっている。</p> <p>【課題】 ・自立相談支援事業の関わっているひきこもりのケースで本事業につながないケースもあるため、情報共有を行いながら、アウトリーチを実施していきたい。</p>
<p>周知・啓発</p>	<p>【実績】 ・自立相談支援事業と近隣の高校・大学へ訪問し、学校側に本事業の対象者像や支援内容の説明を行い、本事業を認知してもらうことに務めた。 ・クローバー芦屋ランチと連携し近隣の高校に事業説明や今後の連携についての提案を行った。継続して事業説明を学校側に行ってきたことで、高校の教諭から卒業生についての相談があり、本事業利用につながった。 ・総合相談窓口や関係機関との連携を強化し、潜在的な対象者の把握やアプローチについて共有することができ、本事業利用者の増加につながった。 ・リーフレットの裏面を利用して、支援の流れや内容について記載した。法人のホームページに本事業についてのページを作成した。</p> <p>【評価】 ・継続的に学校訪問することで、本事業について認知してもらうことができ、学校とどのように連携していくか一緒に考えていく機会となった。 ・関係機関と連携することで、対象者のニーズを知ることができ、地域資源をどのように活用していけば良いかを自立相談支援事業と連携、相談しながらすすめることができた。</p> <p>【課題】 ・法人ホームページに本事業について掲載しているので、今後の取り組みや予定について周知できるように活用していきたい。</p>	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の高校・大学と情報共有や学校訪問を通じて事業を周知し、先生や学生の方と関わりや接点をもつ機会をつくる。 ホームページ等を活用し、事業内容を発信する。 潜在的な対象者が参加しやすいプログラム、イベントを実施する。 	<p>【実績】 ・継続して自立相談支援事業と近隣の高校・大学へ訪問し、学校側に本事業の対象者像や支援内容の説明を行い、本事業を認知してもらうことに務めた。定期的に学校訪問することで、個別ケースにつながったり、在学生に対して出前講座を実施することで、つながることができた。 ・農作業を実施し、潜在的な対象者が参加するきっかけとなった。</p> <p>【評価】 ・定期的に学校訪問し、自立相談支援事業と協力して本事業でどのような取り組みができるかなど学校側に提案、共有することで在学中の生徒につながり教育分野と福祉分野で連携する場面が増加した。</p> <p>【課題】 ・事業内容の取り組みについて周知できるよう引き続き取り組んでいきたい。</p>

項目	令和3年度評価（成果・課題）	令和4年度 of 取組計画	令和4年度 of 実績（令和4年12月末時点）
就労支援	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神南障害者就業・生活支援センターと協働で実施している就労グループセッションに本事業利用者が参加した。 ・就労体験、ボランティア体験先を6件開拓した。 ・開拓した就労体験先で就労体験を1件実施した。 ・保健福祉センターの花の植え替え作業に参加したり、芦屋市社会福祉協議会の赤い羽根募金の準備作業のボランティアと一緒にいった。 ・就労準備支援事業評価指標を活用し、本事業利用者の状況を数値化し、本人と振り返ることができた。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業利用者が就労グループセッションに参加し、就職に向けての取り組みについて学ぶ機会となった。 ・他機関と協働しながら本事業利用者が、他者と関わる場面や作業面でのアセスメントの機会となった。 ・就労準備支援事業評価指標をプログラムや定期的な現状の確認のため活用を予定していたが、本事業利用者の状況によって不定期になってしまうことがあった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労準備支援事業評価指標（KPSビジュアルライズツール）を動きが少ない本事業利用者に対しては活用する機会が少なかった。 	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク生活困窮窓口担当者との連携及び定期的な訪問 ・他市の情報収集や情報共有を行い、連携を図る。 ・阪神南障害者就業・生活支援センターと協働で実施。 ・対象者のニーズに応じて必要とするプログラムの実施。 ・ハローワーク同行や面談。 ・就労準備支援事業評価指標（KPSビジュアルライズツール）を活用し、対象者の現在の状況を数値化し支援に活用する。 ・対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を開拓し実施する。 <p>【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業を実施。 	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者のニーズに応じて農作業等のプログラムを実施することで、ひきこもり状態から外に出る機会につながった。 ・対象者のニーズに合わせてボランティア体験や就労体験先を4件開拓した。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開拓した協力事業所で就労体験を実施した。 ・開拓するのみでなく、ニーズに合わせた開拓が実施できた。 ・体験した方から「やってみて自分の適性の参考になった。」という声が聞けた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者のニーズに合わせたプログラムや体験先を開拓するための人手が不足している。 ・就労体験利用の増加に伴い、職員が付き添う場面も増加し、他のプログラム実施等の職員側の人手不足が課題になってきている。
相談支援体制の機能強化	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市の就労準備支援事業の取り組み内容を調査し、プログラム内容や就労体験先や事業利用者についての情報を得ることができた。また芦屋市の取り組みについても伝えながら相互の情報共有となった。 ・自立相談支援事業との定期的な打ち合わせや情報共有を行い、就労を課題とする方の早期の介入を継続して行うことで本事業利用者の増加につながった。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立相談支援機関と継続して綿密に連携、早期からの面談の同席、定期的な打ち合わせにより情報の共有に努めることができた。 ・就労相談のうち、障がい者手帳を所持しておらず、日中活動の場がない方に対してつどい場「くろまつ」を通して参加の場の提供ができた。 また、手帳を所持している方で日中活動の場がない方の参加の場の機会となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携している他機関がつなぎやすいように、本事業のプログラムや内容について継続して周知しながら連携をさらに強化していきたい。 	<p>【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例支援調整会議・事例検討会への参加。 ・就労支援センター全体会議への参加。 ・芦屋市民生児童委員協議会への参加 ・若者相談センターアサガオとの連携 ・ひょうご発達障害者支援センター「クローバー芦屋ランチ」と連携し、情報共有を図る。 ・外部研修への参加 ・事例検討会への参加 ・自立相談支援事業の打ち合わせに参加し情報の共有を行い、該当者への支援や本事業利用促進に努める。 ・阪神南障害者就業・生活支援センター相談者の障がい者手帳の有無などを共有して支援する。 	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立相談支援機関、若者相談センター「アサガオ」等関係機関と連携することで、6件が本事業の利用につながった。（継続1件、新規5件） <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立相談支援機関や他機関と継続して綿密に連携、早期からの面談の同席、定期的な打ち合わせにより情報の共有に努めることができた。 ・就労相談のうち、障がい者手帳を所持しておらず、日中活動の場がない方に対して、つどい場「くろまつ」を通して参加の場の提供ができた。 ・本事業で実施している内容について関係機関と共有することで、本事業の利用者、つどい場「くろまつ」、「農作業」に参加する方が増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して本事業のプログラムや内容について、継続して周知しながら、連携をさらに強化していきたい。